

明和児童クラブだより

第6号
2021年12月15日 発行
(文責) 鷺頭

冬休みにはダンス教室を開催します！！

冬休み中の12月28日(火)と1月4日(火)の午後に、ダンス教室を開催することになりました。

講師には、明和県央高校出身で、現在フリーのダンサーとして活躍している堀江真由さんにお越しいただく予定です。新型コロナウイルス感染対策として、密にならないように、1・2年生は、12時45分からの60分間、3年生以上は、13時45分からの90分間と2回に分けて実施する予定です。参加を希望する児童には、動きやすい服装で登所するようにご配慮願います。



講師のプロフィール

氏名	堀江 真由		
経歴	明和県央高校ダンス部 部長	ダンス専門学校卒業	
実績	SWISHオープニングアクト出演	ホットペッパービューティCM出演	
	紅白歌合戦Little Glee Monnsterバックコーラス出演		
	現在フリーのダンサーとして活動中		

来年度に向けての必要書類などの配付をしました

本日、来年度の継続や入会に向けての必要書類や1月の利用予定表等以下の文書を配付しましたので、ご確認ください。

《本日の配付資料》

1. 来年度の継続や入会に向けての必要書類・・・1月14日締め切り

- ①「必要書類提出のお願い」
- ②家庭状況調査票
- ③就労証明書
- ④写真等公開にともなう調査のお願い
- ⑤学費口座振替依頼書(新規会員のみ)

2. 「1月の利用予定表」

12月22日が提出締め切り日になっていきますのでよろしくお願いします。

3. 前橋市保健所からのアンケート

・前橋市保健所から依頼されたアンケートです。ご協力いただける方はよろしくお願ひいたします。

4. 「明和児童クラブだより」第6号(本紙)

保護者の皆様へのお願い

このところ、児童クラブへの欠席連絡のメールが、当日の午後3時過ぎになってしまったり、メールが入らずに欠席したりといった事案がやや多くなっています。そのために、支援員のお迎えが無駄になったり、次の学校へのお迎えが遅れたりといったことも起きています。明和児童クラブでは、児童のお迎え前に部屋ごとの出席者数を確認して、おやつ準備をしたり、送迎計画を修正したりしておりますので、遅くとも当日の午前中までにはメールでの連絡をお願いします。また、学校を休んだり、早引きしたりした場合にも、忘れずに連絡をお願いします。

子育てのあれこれ No.13

今回は、「課題が多い子どもの指導」について事例をもとに考えてみたいと思います。

【事例】

1年生になったばかりのA君ですが、親の目から見ても課題がたくさんあり、「・・・で先生から叱られた」などの情報が、毎日のように他の友だちから入ってきます。A君の課題は次のようなもの（ア～ケ）ですが、どのように指導していったらよいのでしょうか？

ア 忘れ物が多い イ 宿題が提出できない ウ 友達との口げんかが多い
エ 友達に暴力を振るうことがある オ 授業に集中できないであきてしまう
カ 登下校時にふざけて道を歩く キ 授業中の先生の説明を最後まで聞けない
ク 整理整頓ができない ケ 給食当番など学級の仕事をさぼってしまう

もし、我が子がこんな状況だったら、頭を抱えてしまいますね。でも私自身、我が子を振り返ると、これに近いこともかなりあったことを思い出します。

さて、ここで大切なのは、**優先順位を決めて指導する**ということです。子育ての理論によると、「一度にあれもこれもと指導すると、どれも中途半端になってしまって身に付かない」と言われています。「優先順位を決めて、一つのことにしぼって集中的に指導していく」のが効果的で、「ある一点の指導で効果が見えたら次の一点の指導へと移っていく」と指導すべきだと言われています。親としてはあれもこれもと目についてしまうので、かなり忍耐がいることですが、それが大切なのだそうです。それでは、**上の事例のア～ケについて、指導の優先順位を考えてみたい**と思います。

実は、様々な子育て理論の基礎になっている理論の一つに、人間の欲求は、①生理的欲求②安全への欲求③所属と愛の欲求④自尊の欲求⑤自己実現の欲求の順に満たされていくといった「マズローの欲求階層説」というのがあります。

この理論については、昨年度の「児童クラブだより第4号」のこのコーナーですで紹介させていただいています。また、①情緒の安定②自主性の発達③適応能力の発達④知識の習得の順に人格は形成されていくという平井信義氏による理論も有名です。それらの理論とその他の理論も併せて考えると、**子どもを指導する際の優先順位**は次のようになります。

1. 「命を大切にする指導」 **2. 「まわりの人に迷惑をかけないようにする指導」** **3. 「自分自身を向上させるための指導」** **の順になるはず**です。

そのようなことを踏まえて、もう一度、上の事例のア～ケについて、指導の優先順位を考えるとどのようになるのでしょうか？

まず、最優先に考えなければならない指導は、「カ」になるでしょう。「カ」は「命にかかわること」だからです。次は、「エ」になるのでしょうか。「エ」は人に迷惑をかけるとともに場合によっては「友達

の命にかかわることになる危険もあるからです。その次は、人に迷惑をかけるといったことからすると「ケ」になるでしょう。「ウ」もそうなのですが、「けんかによって社会性を身に付ける」といった子どもの発達特性からすると、あまり神経質にならないことも必要でしょう。でも、「エ」や「ウ」は「情緒の安定」にかかわっていることもあるので、子どもの状況によっては、「ウ」の優先順位を上げることも必要だと思います。

その他のことは、すべてその子自身のことになるので、優先順位は、基本的な生活習慣→学習規律→学習習慣の順になると思えます。

以上のようなことから、指導の優先順位をつけるとすると、1. 「カ」2. 「エ」3. 「ケ」4. 「ウ」5. 「ク」6. 「ア」7. 「キ」8. 「オ」9. 「イ」となるはずですが、皆様はどのように考えますか？

*参考文献 高野清純「しかるが育てるもの」、神谷和宏「ほめ方叱り方コーナー」、星一郎「アドラー博士の子どもを勇気づける20の方法」、加藤諦三「子どもがのびのび育つ叱り方ストレスになるほめ方」、平井信義「子どもの能力の見つけ方・伸ばし方」「心の基地はおかあさん」 他